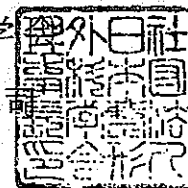


平成 13 年 8 月 21 日

厚生労働省 医政局長  
伊 藤 雅 治 殿

社団法人日本整形外科学

理事長 山 本 博



## 要 望 書

本年 6 月に発足しました医道審議会医師分科会医師臨床研修検討部会において、平成 16 年 4 月施行の初期臨床研修の必修化に向けての臨床研修制度の具体的事項が検討されております。この臨床研修制度の必修化は、良質な医療を国民に提供するとともに、我が国の医療の在り方や医師養成の在り方と関連し極めて重要なことであり、社団法人日本整形外科学会としましてもこれを強く支持するものであります。

臨床研修の内容に関しては、国立大学附属病院長会議を始め、臨床研修を実施している医療機関や医学関係学会等でも検討されており、本学会においても、スーパーローテーション方式による卒後初期臨床研修カリキュラムについて検討しています。

国民の筋骨格系の健康維持・増進、更にはQOLの向上には、初期臨床研修において少なくとも次のような事柄の診断とプライマリーケアの研修が必要不可欠なものと考えます。

1. 日常診療で頻度が高く、初期治療を誤ると問題の多い四肢、脊椎の外傷
2. 高齢者社会の進展に伴い、ますます増加している腰痛、関節痛、四肢のしびれ
3. 乳幼児や学童の先天異常や成長に伴う運動器のメディカルチェック
4. 国民の健康スポーツ実施に向けての運動器の基本的メディカルチェック修得

これらの研修にあたっては、それらを専門領域とする整形外科での研修がもっとも適切であるとともに、必須であると考えます。従いまして、卒後初期臨床研修の必修ローテーションに整形外科を加えていただけますよう、日本整形外科学会として強く要望いたします。

## 筋骨格系の病態に対する研修目標

\*到達目標：筋骨格系疾患の診断・治療・リハビリテーションについて理解し、基本的事項を実行できること。

\*行動目標：

### 1. 診断法

- ・病歴の聴取、触診、関節可動域及び筋力の測定、反射及び知覚検査の実施と、これらの適切な記載。
- ・各種画像診断並びに筋電図検査のオーダーを適切に出し、かつその結果を理解できる。
- ・関節穿刺、腰椎穿刺ができ、かつ関節液、髄液の異常について判断が下せる。

### 2. 治療法

- ・薬剤の適切な使用（消炎鎮痛剤、筋弛緩剤、ステロイド剤、ビタミン剤、抗菌剤、骨粗鬆症用薬等の種類と薬用量を理解し処方できる）。
- ・包帯法、副木、ギプスについて理解し、簡単なものが実施できる。
- ・物理療法、牽引療法、理学療法について実地見学を行い、オーダーが出せる。
- ・関節内注射、硬膜外注射、簡単な神経ブロックができる。
- ・体幹用コルセット、指・膝用ブレース等について理解し、適応がわかるようになる。
- ・次の手術について見学または介助し、術前・術後管理の修練を積む。

骨折の整復固定（非観血的、観血的）

開放骨折のデブリドマンと止血及びその後の処置（鋼線牽引を含む）

関節脱臼の非観血的整復（小児肘内障を含む）

股関節人工骨頭挿入術

腰椎椎間板ヘルニア手術

### 3. 疾患の理解と対応

- ・頸髄症の症状、所見、ルーチン検査、治療の概要について理解する。
- ・椎間板ヘルニアの症状、所見、ルーチン検査、治療の概要について理解する。
- ・変形性股関節症、変形性膝関節症の症状、所見、ルーチン検査、治療の概要について理解する。

- ・膝半月板損傷、靭帯損傷特にスポーツ外傷との関連においてその症状、所見、ルーチン検査、治療の概要について理解する。
- ・四肢の骨折・脱臼について症状、所見、ルーチン検査、治療の概要及び、内固定用金属の適応について理解する。
- ・手指の外傷とその初期治療を可動域並びに感覚保持の必要性と関連付け理解する。
- ・小児の骨折、肘内障について特徴と好発部位並びに治療の特殊性を理解する。
- ・小児の斜頸、側弯症、股関節脱臼、内反足について述べるができる。
- ・高齢者の骨粗鬆症による脊椎の変形や大腿骨頸部骨折について理解し、前者の薬物療法、物理療法、コルセット等の治療法について、後者の手術療法について述べるができる。
- ・骨腫瘍とくに転移性腫瘍の痛みにたいする治療法を理解する。
- ・脊髄損傷の診断、治療、リハビリテーションについて理解し、指示を出すことができる。
- ・関節リウマチの診断とステージ、クラスを理解し、基本的薬物療法、手術、リハビリテーションについて述べるができる。
- ・痛風について病態、症状、治療について理解し薬物療法の処方ができる。
- ・その他筋骨格系の病態に対応できる整形外科的疾患の診療の経験を持つ。

#### 4. 政策に対する理解

- ・難病の診断基準、身体障害者診断書、障害者年金診断書、介護保険主治医意見書等を通覧する。
- ・健康保険制度とそれに基づく医療の現状を理解する。
- ・インフォームドコンセントの実行と情報開示に対応するカルテの書き方を理解する。